タイトル

お坊さんと晩ご飯
～専門家と連携した“気軽な相談相手”を目指して～

応募者

Keitaro さん（東京都、リサーチャー）

アイデアについて

①アイデアのタイトル

お坊さんと晩ご飯 ～専門家と連携した“気軽な相談相手”を目指して～

②アイデアの対象となるお寺の環境は？（例：過疎地・過密地・市街地・農村・漁村・島等）

市街地にあるような、街の中のお寺。

③アイデアの対象となる人たちは？（例：地域の子どもたち、小さい子を持つお母さん、若者等）

お坊さんに相談する機会が欲しいと考えている人。加えて、健康問題、経済・生活問題、家庭問題、労働問題など、自殺問題と直結しやすい深刻な問題を抱える全ての市民。

④アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200 字程度でお書き下さい。）

アイデア「お坊さんと晩ご飯」は、街の食事処、居酒屋などを、市民との対話の場に活用するというものだ。加えて、街に住む専門的な職業に従事している人との連携を通じ、人々が抱える実生活の問題に対する解決方法までも提示できる場を提供する。
その際、お寺（お坊さん）は、問題への「向き合い方」（心のあり方）を教える役目を担う。市民が抱える個々の問題に対し、全方位から支援できるような受け皿作りを目指す事で、特に、長く深刻な問題となっている自殺問題の改善を目指す。

⑤アイデアの内容（アイデアについてできるだけ詳しくお書き下さい。）

「お坊さんと晩ご飯」は、お寺の活性化と地域コミュニティの活性化を同時に実現する為のアイデアである。具体的には、「人々がお寺をより身近に感じ、気軽に相談したくなるような相手だと思えるようになる」と同時に、「お坊さんと専門家との連携を通じ、地域に住む一人一人が抱える問題を実質的かつ心理的にも解消する」ような役割を担う。

【背景にある問題】

実は、「人々はお寺でお坊さんとお話をしたがっている」。そんな統計結果が、民間のシンクタンクによる調査から明らかになっている。一方で、人々が実際にお寺を訪れる際におこなうのは、お墓参り、観光、法事、初詣など、お坊さんとの会話とは異なる行事が多い。

ここには、「お坊さんに悩みを相談したい」という潜在的なニーズがあるのではないだろうか。

【なぜお坊さんが必要とされているか】

なぜ、悩みをお坊さんに相談したいのであろうか。仮説ではあるが、それは、人々が「具体的な問題の解決方法」だけを知りたいのではなく、「問題にどう向き合ったらよいか」という心のあり方に悩みを抱えているからだと考えられる。

特に、自殺の主要原因となっている「健康問題」「経済問題」「家庭問題」といった問題群へのアプローチには、「実際的な解決方法」だけではなく、問題自体にどう接すれば良いのかという「問題への向き合い方」も重要となる。なぜなら、問題自体が完全には解決し得ないことや、問題の解決に時間がかかり、心理的・身体的な負担を伴う場合があるからだ。

【提案：お坊さんと晩ご飯】

実際的な問題の解決方法と，問題への向き合い方を総合的に提供するのが「お坊さんと晩ご飯」だ。上述の通り、「問題への向き合い方」を人々が求めているとしても、実生活で様々な選択を迫られる私たちにとって「問題の実際的な解決方法」は欠かす事ができない。そういった意味で「お坊さんと晩ご飯」が提案するのは、相談の機会だけでなく、「お坊さん」と「専門家」の連携だ。

（ステップ１）

街の食事処、居酒屋などを、市民との対話の場に活用し、気軽にお坊さんとお話が出来る場を提供する。

・具体的な時間と場所は、お店との連携で広報活動をおこなう。

・足を運んできてくれた人と話をする中で、必要に応じて専門家を招集する（下記）。

（ステップ２）

街に住む専門的な職業に従事している人との連携を通じ、必要に応じてお坊さんと共に人々にアドバイスをする機会を設ける。専門家は具体的な解決への道筋を。お寺（お坊さん）は、問題への向き合い方を教える役目を担う。

注記

＊あくまでも、お坊さんと「気軽に食事とお話が出来る場所」として告知する事で、深刻なムードが漂わないようにする。

＊専門家にはファイナンシャルプランナーや、弁護士、医師、介護士等、あらゆる業種が想定出来る。

＊専門家の参加形態は「プロボノ」を想定している。これは、「専門的な技能を生かしたボランティア」と換言でき、近年注目を集めている社会との関わり方である。

⑥添付資料（ここに記入しきれない内容、イラスト、写真、作品等の資料があれば別途添付して下さい。）

あり（　統計資料などを含んだスライド　　）

お坊さんと晩ご飯

～専門家と連携した“気軽な相談相手”を目指して～

<補足資料>

Keitaro

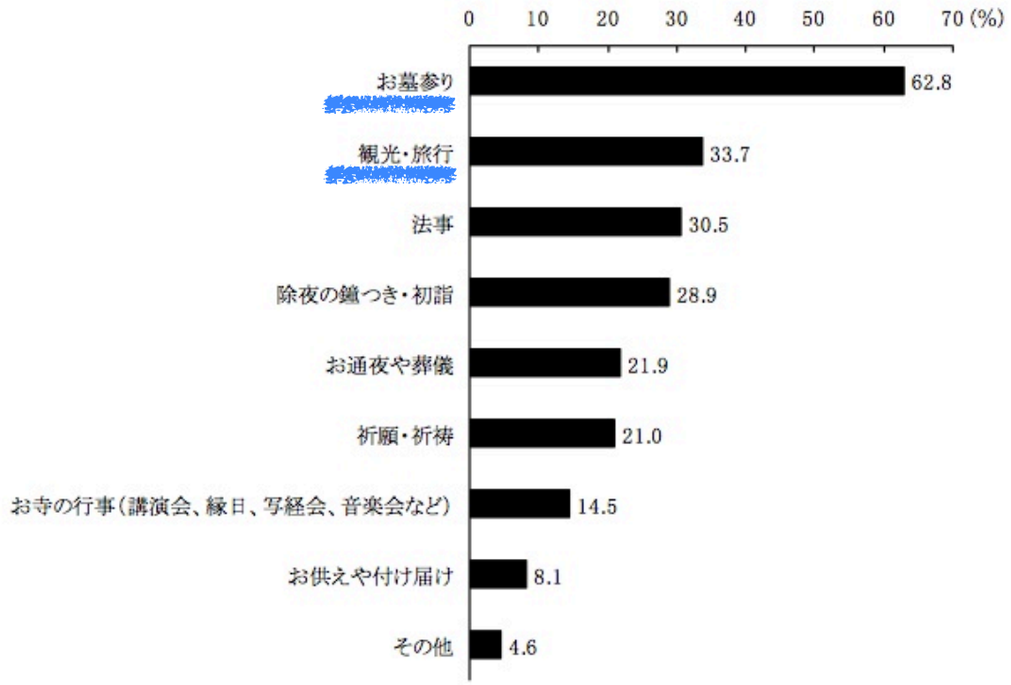
目的

- ゴール
  - 「お寺を活性化！」
  - 「地域を活性化！」
- 抽出すべき具体的な課題
  - 「活性化に向けて、お寺の抱える課題」
  - 「活性化に向けて、地域の抱える課題」

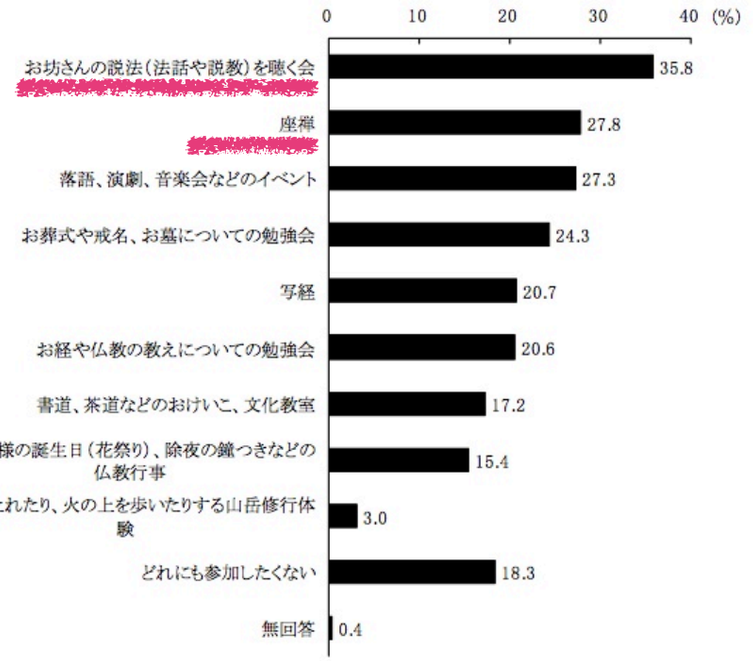
背景：**お寺**の抱える課題

- 「訪れた理由」と「訪れたい理由」の乖離

図表1　寺院を訪れた目的＜複数回答＞



図表2　寺院で参加してみたい行事(3つまで選択)

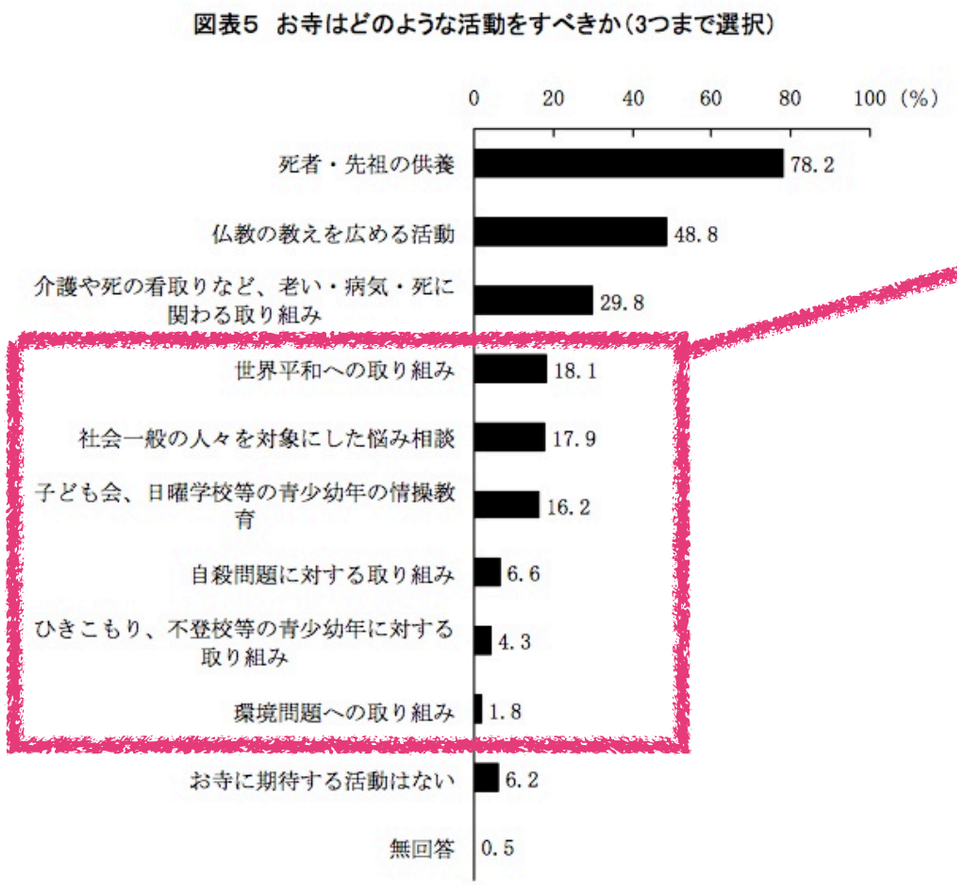


⇒「お墓参り」で訪れる機会は多いものの、
実は「お坊さんのお話」を聴いてみたい。

統計資料：第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部『寺院とのかかわり～寺院の今日的役割とは』より
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/note/notes0910a.pdf

背景：**お寺**の抱える課題

- 期待される活動



赤枠は、期待されている活動のうち、先ほどのスライドの「寺院を訪れた目的」に含まれないもの。

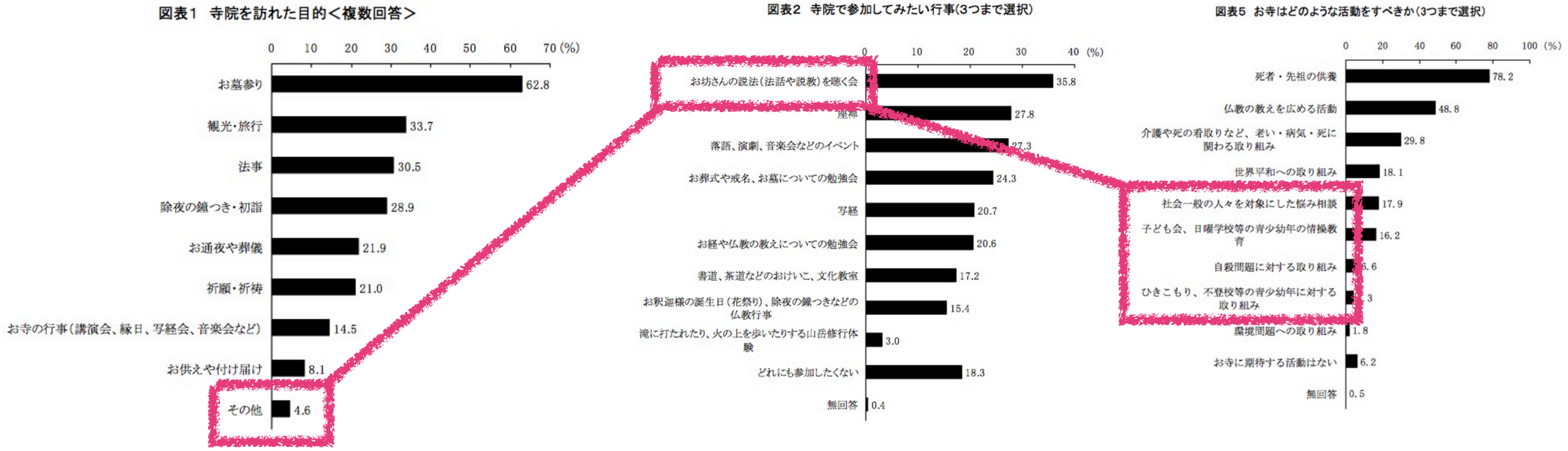
⇒今後新たな活動が期待される領域。

統計資料：第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部『寺院とのかかわり～寺院の今日的役割とは』より
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/note/notes0910a.pdf

背景：**お寺**の抱える課題

- 市民の声から見えてくる「これからのお寺」

まだ実現していない　×　高い潜在ニーズ　×　期待されている活動



⇒悩みから解き放ってくれるような「お坊さんのお話」を聴く事が出来る場所。例：自殺問題、不登校

統計資料：第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部『寺院とのかかわり～寺院の今日的役割とは』より
http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/note/notes0910a.pdf

背景：**地域**の抱える課題

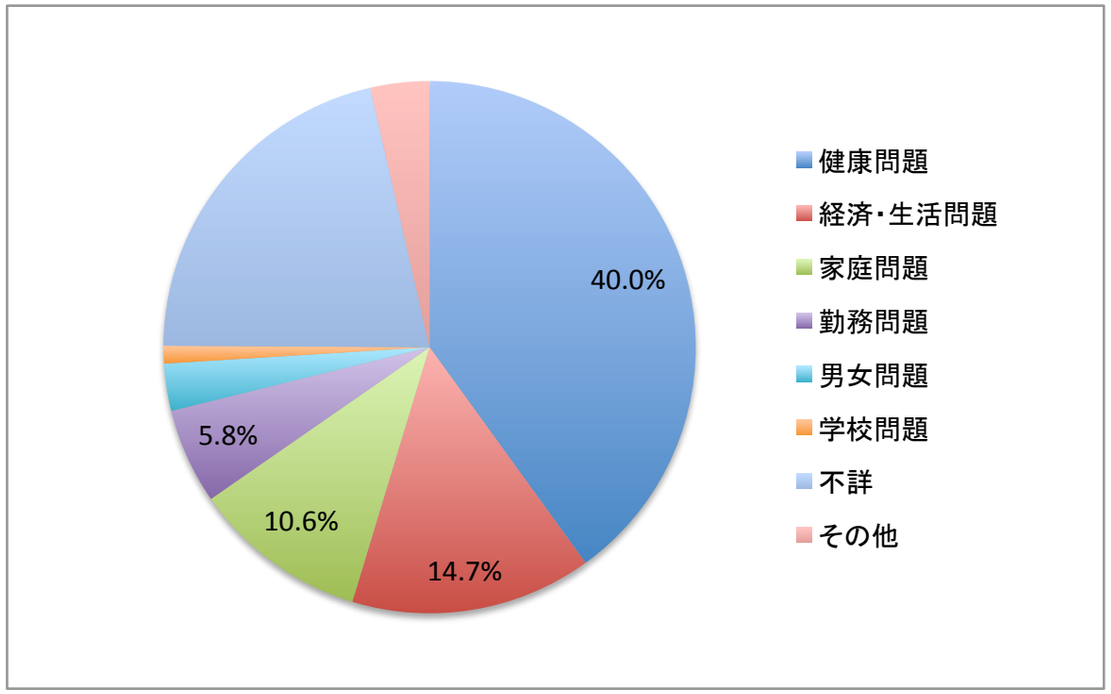
- 解決したいのは地域が「元気ではない状態」

⇒特に、市民が「自殺」を考えてしまう様な心理状態は緊急性が高い例として挙げられる。

⇒まず「自殺の原因」を知る必要がある。

背景：**地域**の抱える課題

- 自殺の原因



- 特に、
  ⇒健康問題
  ⇒経済・生活問題
  ⇒家庭問題
  ⇒勤務問題

で、自殺の原因の約70%を占める。

⇒特に健康、勤務（労働）問題は、
専門家の助けが必要な事もしばしば。

統計資料：内閣府「月別の地域における自殺の基礎資料（平成24年9月）」A5表 都道府県別集計 -住居地-
http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/tsukibetsu-h2409.html
http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/pdf/h2409/a5.pdf

課題の明確化

- 解決すべき具体的な課題

  - 「活性化に向けて、お寺の抱える課題」
    ⇒「お坊さんのお話」を聴く事が出来る場所の提供

  - 「活性化に向けて、地域の抱える課題」
    ⇒自殺問題。

どのように？

- 自殺の原因となっている問題と、お寺の接点

	問題からの解脱	専門的知識による解決
お寺	**強い**	弱い
専門家	弱い	**強い**

「健康問題」「経済・生活問題」
「家庭問題」「勤務問題」の具体的な解決策を知るには、専門家（医師や弁護士、カウンセラー、ファイナンシャルプランナーなど）の助けが有効だが、

↕

個人に対し、「人生を見つめ直し、より広い視野で問題を捉え直す」ことを促すのはお寺の強みである。換言すれば、問題への向き合い方を教えてくれると言える。

どのように？

- 自殺の原因となっている問題と、お寺の接点

お坊さん

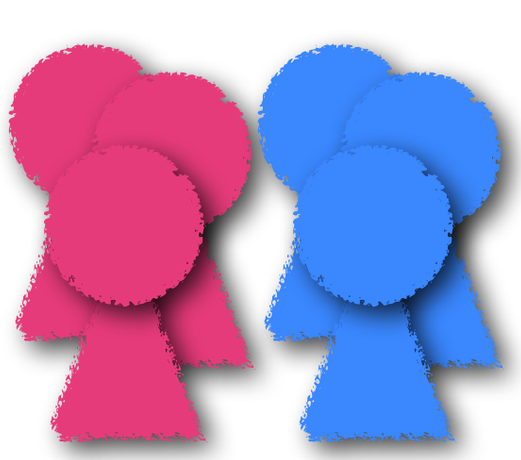
ex: 医師、弁護士、カウンセラー

一緒に活動しては？

どのように？

- お寺と専門家の連携による自殺問題へのアプローチ

なんでも相談屋さん



お坊さんと、専門家集団から成る、
気軽な相談相手

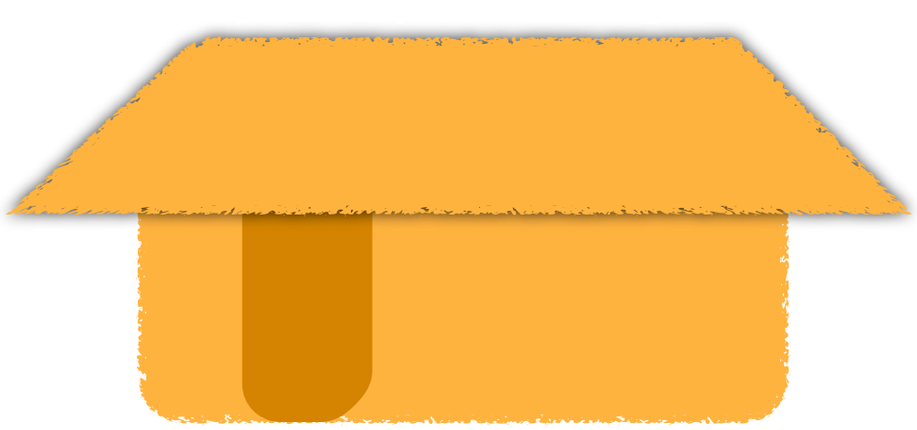
「健康問題」「経済・生活問題」
「家庭問題」「勤務問題」などの、

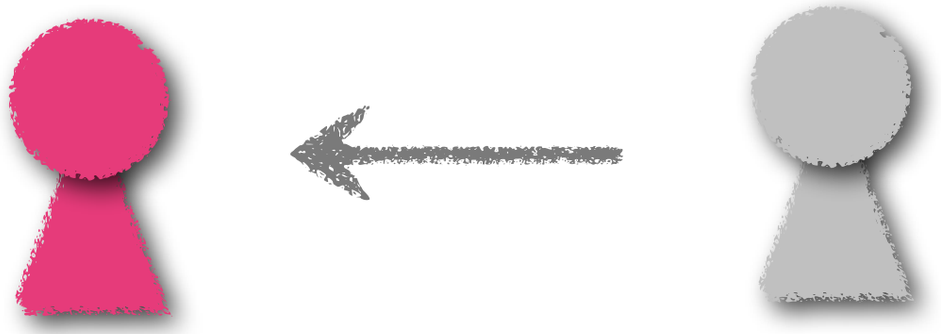
具体的な解決策と
問題への向き合い方を相談

実践例：お坊さんと晩ご飯

- 街の食事処でお坊さんと市民が一緒に食事をする。

街の食事処　＋　お坊さん　市民





近所の食事処を会場にすることで、
相談事のある／なしに関わらず、
気軽に参加出来る仕組みを作る。

例：街の弁護士やお医者さん等

専門家

必要に応じて参加

一回目に相談の概要を聞いてから、
二回目に呼ばれる等。

image via:
www.higan.net/bouzu/
編集済み

ありがとうございました。